

先日の 爆弾低気圧の通過は まるで 台風到来のようで、各地で様々な被害や影響もあったようです。ここ数年 続いている 異常気象に 大きな不安や 緊張を 覚えます。けれども 最近のニュースを 見ていると、異常なのは 自然界ばかりではなく 何より人間の 心の方が 狂い始めているのではないかと 思われることが多くなりました。連日のように 起こる 殺人事件の詳細を 知る度、人として 言葉を 失ってしまいます。人が 人の命を奪う その権利がないこと、そして 生かされていることの 貴い意味を 目の前の 子ども達にも 今一度 強い祈りを込め、温かな想いで 常に 伝え続けていく必要があることを、先を生かされている者の 使命として 強く 思われています。私たち大人が きちんと向き合い、想いを伝えるという機会が 急激に減り、子ども達は『想う』『考える』など、“心”を 駆使しなくなりました。「人としての在るべき姿」を 子ども達が 見失っている気がしてなりません。乳幼児期の 拙い歩みを 温かく見守り、ささやかな想いに 寄り添い、ゆったりと 待つことで、子ども達は 信頼を 覚えます。その安心感の中で 視野が 広がっていき、様々なものに 気付き、関心を持つようになり 意識を 働かせることができるようになっていくのだと思います。そうやって 子どもは 自分の 思いを 大切にされる 経験をしていくことで、自分と同じように 人の心を 大切に 思いやること、小さな存在を いたわり 慈しんで 分かち合いたいと思う 気持ちが 育まれ、大人たちの 生き様を通して、自らの 命の源（神様）の 存在、生かされていることを 知り 被造物としての 感謝と 謙遜が 培われていくのだと思います。そして その心の 成長の 土台が 築かれる 乳幼児期は 人生において ほんの 僅かです。だからこそ 私たち大人は 子ども達と 精一杯 向き合い、想いを 馳せ、一生懸命に 考える時間を いつでも 豊かに 与えてあげたいと思うのです。乳幼児期の 歩みに 近道や 速足をする 必要はありません。失敗、間違い、やり直し など…そういう 面倒くさくて 遠回りと思われる 試行錯誤を 繰り返す中で 大人たちが ゆっくりじっくり 向き合い、寄り添い、丁寧に “手間” を かけてやることで 子ども達の 心の土台が つくられていくのだと思います。

1人の人の “本質” が在るのは、目に見えている 外見ではなく、内なる “心” であり その心こそ この世に生きる 生命の中で 唯一、人にだけ 神様が 与えられたものです。先日の プレイ・デイ 保護者会でも お話した通り、物事の 価値は 結果ではなく 経過です。人の 生涯は 「何を どれだけ多く 得るか」ではなく、「どう 生きるか」 だと思います。ひとりひとりが すべての 経験を、誇りにし、心豊かに 生きることではないでしょうか。保育園の 行事が 結果（当日）に向け ただ 見せることだけを 目標とするような 日々の 生活や 活動であるとしたら それは 子どもにとって 全く 無意味です。保育者の 号令や 指示、命令が 溢れる 生活では、子どもは 考えることも 想うことも 必要 なくなります。大人の 都合や 思惑どおりの 毎日は 画一的で 無感動、無責任な 子どもが 育ちます。真剣に 生きるからこそ ぶつかります。ぶつかるからこそ 心に 傷が つき ひだが 生まれ それが多いほど 人は 思慮深く 優しく なるのだと思います。つのぶえ 保育園では 『子ども達にとって』という 目線を 大事に しています。ひとりひとり異なる 子ども達 それぞれの 個性や 性格、成長 発達 の 歩幅や スピード、毎日の 生活リズムを 保育者が 尊重し、小さな 心から 発する ささやかな メッセージや 想い 微かな 眼差しに 寄り添い、本来 持っている力を 可能性に変えていけるよう 『やりたい!』『やってみよう!』と 自発性や 主体性を 互いに 育み合い、分かち合える 毎日でありたいと 願い 過しています。プレイ・デイは、子ども達が その日頃の 成長を のびのびと 発揮できる 素敵な 1日です。神様の 豊かな 祝福の中で “みんなが 楽しめる” 笑顔の ひと時 となりますように・・・ 『顔が、水に 映る 顔と同じように、人の 心は、その 人に 映る。(箴言 27:19)』(石田 記).